

## ～旧約聖書を読んで感じること～ (90) 北イスラエル 10代目の王 イエフ

預言者エリヤはバアルにひざまずくイスラエルに、「ハザエルに油を注いでアラムの王に、ニムシの子イエフに油を注いでイスラエルの王に、エリシャにも油を注いでエリヤに代わる預言者とせよ」(列上 19:16) という主の言葉を聞きました。その言葉を密かに実行したのがエリシャです。イスラエルはユダ王国と同盟は組んでいたものの、アラム軍(現シリア地方)によりアハブ王は戦死、アハズヤ王は病死、ヨラム王の代になって、モアブ(現ヨルダン地方)が叛旗を翻し、エドムがユダ王国と対立し、アラムは新王ハザエルを得て、イスラエルを攻め始めるという絶え間ない戦争状態が続いていたのです。

イスラエル軍の将軍として戦場にいたイエフのもとに、エリシャは弟子である若い預言者を遣わし、イエフを呼び出し、彼の頭に油を注いで、エリヤの預言を告げました。

「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしはあなたに油を注ぎ、あなたを主の民イスラエルの王とする。あなたはあなたの主君アハブの家を撃たねばならない。こうしてわたしはイゼベルの手にかかったわたしの僕たち、預言者たちの血、すべての主の僕たちの血の復讐をする。アハブの家は全滅する。わたしは、イスラエルにおいて縛られている者も解き放たれている者も、アハブに属する男子をすべて絶ち滅ぼし、アハブの家をネバトの子ヤロブアムの家のようにし、アヒヤの子バシャの家のようにする。犬がイスラエルの所有地でイゼベルを食い、彼女を葬る者はいない。』」(列下 9:6)

イエフはヨラム王の家臣たちにこれを告げると、家臣たちは上着をイエフの足元に敷き、角笛を吹いて「イエフが王になった」と宣言しました。これは謀反ですが、預言者によって油を注がれたという事実、さらにイゼベルに毒された王家への嫌悪のため、即座にイエフを認めたのでしょう。



イスラエルに向かうイエフ Edward Henry Corbould (1815-1905)

イエフは軍人です。滅ぼせという命令には忠実に果敢に実行しました。王ヨラムは戦闘で傷を負い、戦場のラモト・ギレアドから、都に近いイスラエルまで戻っていました。その時、ユダの王アハズヤが見舞いに来ていたところでした。戦車を走らせて全軍を率いて走ってくるイエフを迎えようとしたところ、イエフは何の躊躇もなく、弓を取り、ヨラムの心臓を射抜きました。ヨラムの「裏切りだ」との声を聞いてアハズヤも慌てて逃げましたが、追いかけられ、途中で傷を負い、メギドまで逃げましたが、そこで命を落としました。

イエフはサマリヤの城門に入ると、イゼベルは 30 年以上君臨していた誇りがあったのでしょう、殺されることを知りつつも、目に化粧をし、髪を結び、窓から見下ろして「主人殺し」と呼びかけました。イエフは窓を見上げて「私の味方になるものは誰だ」と言うと、2,3 人の宦官が顔を見せたので、「その女を突き落とせ」と言うと彼らはイゼベルを突き落しました。イゼベルはむごい状態で死にました。その後、イエフはアハブに属するすべての血族を殺すように命じ、それが実行され、一族は全滅しました。さらに、イエフはバアルに仕える者を絶やすために、策略を用いました。イエフは「私は大いにバアルに仕えるつもりだ」といって、バアルに仕えるすべての祭司を神殿に集め、祭服を着せ、燔祭を捧げさせた後、近衛兵、侍従たちに命じ、全員を剣にかけて殺し、バアルの神殿にあった石柱と、神殿そのものも破壊し、そこを便所にしたのです。エリヤの預言を忠実に守り、アハズとイゼベルの暴虐に復讐し、バアル信仰を取り除いたのはイエフでした。けれども、ベテルとダンの子牛はそのままにされたままです。即位後に、イエフはアラムのハザエルからたびたび侵略を受けるようになりましたが、恭順の意を示すことで忍耐していくしかありませんでした。